

会 議 録

<会議名称> 令和4年度 第7回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和5年2月14日(火)

<時 間>15時30分~17時

<場 所>岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

和泉校長	北川校長	南教頭	上ノ山教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	■	○	■

(教育委員会事務局)

片山学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	八幡人権教育課長	角銅指導主事
○	■	○	○

(学識経験者)

山口教授
■

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 協議
3. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・令和4年度 小中一貫教育推進会議まとめ
- ・「(仮称) 新たな科」について

1. 教育委員会挨拶

【片山委員長】

こんにちは。学校教育部の片山です。

本日も何かとご多用の中、第7回岸和田市小中一貫教育推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。

当初の予定通り、本日第7回の推進会議を本年度の最終回として迎えることができました。これまで滞りなく会議を進めることができ、また、岸和田市の小中一貫教育について、建設的な協議を進めることができましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

このような年度をまたぐ会議を進めていくうえで大切なことは、これまで協議いただいたことを、確実に申し送ることだと考えます。本日は、来年度への申し送りを前提としたまとめの資料が出されておりますので、中身を十分にご確認いただき、ご意見等を出していただきたいと思っております。

それでは委員の皆さま、本日も1時間半という限られた時間です。積極的にご発言いただき、実りのある会議になりますよう、ご協力よろしく申し上げます。

2. 協議

【片山委員長】

本日は、これまでの協議のまとめを行うとともに、来年度以降の予定について確認をしたい。事務局より、今年度のまとめと、「(仮称) 新たな科」の修正版を資料として出しているのので、まずはこの資料について、事務局より説明をお願いしたい。

【角銅委員】

(別紙「当日配布資料」について説明)

【片山委員長】

小中一貫教育のまとめの資料にしたがって、①番、②番、③番の説明があった。①と②はこれまでの協議のまとめになっており、③は前回の協議をふまえてあらためての提案も含めた形になっているので、①②と③は分けてご意見等をいただきたい。まず①②のことについてご質問等をお願いしたい。

【何森委員】

小中一貫教育の計画書については、今の様式で確定になるか。進める中で、改善・修正の可能性はあるか。

【角銅委員】

ひとまずモデル校区で使用してみる。今後、場合によっては修正する可能性はある。

【片山委員長】

他になれば、①②の件についてはこの内容でまとめとしたい。ただ、この後の話し合いの中で、必要であればまた①②に戻ることにしたい。

では次に、③の新たな科については、まとめと新たな提案も含めたものになっている。これについてはいかがか。

【和泉委員】

「内容等」の2つ目、「学びでつながることができるもの」について、イメージが持ちにくい。

【角銅委員】

裏面の「教材の内容」のところに、「知識的なことを学ぶ内容ではなく、探究的な学習の進め方・考え方を学んでいけるもの」とある。このことをさしている。もう少し表現については工夫したい。

【何森委員】

関連する内容として、「系統的」の表現について質問したい。この系統は、知識的な内容ではなく、探究的な学びの系統という説明だった。これをやっていなければ次ができないという内容であれば、柔軟に使うことはできないので、この「系統」についてももう少し確認をしたい。

【角銅委員】

学びでつながるということなので、決して知識的な内容ではない。学び方を学べるような紙面構成にしているので、内容も含めて柔軟に対応できる。

【片山委員長】

表の面の文言については、最初の提案時のままになっているので、これまでの議論をふまえて事務局で加除修正をお願いしたい。

では、他にあれば出してほしい。

【何森委員】

裏面の「構成」に3章構成とあり、そこでは探究的な学習の傾向・レベルに合わせた3章構成になっているが、「実施までのスケジュール」では学年ごとの教材作成とある。内容は学年ごとなのか。

【角銅委員】

これは誤記載。「学年ごと」ではなく、「章ごと」といった表現に修正したい。

【何森委員】

スケジュールのことだが、わずか2年ほどで形にしていくのは、なかなかタイトではないか。

【角銅委員】

2年間ですべてを完成させるイメージはない。令和7年度以降に少しずつ具体化され、できたものから使っていこうという議論があったと思うので、令和8年度末にかけて使いながら完成にたどり着くイメージ。

【何森委員】

それにしてもスケジュールはタイトに感じる。小学校3年生から中学校3年生までを対象とする教材を作っていくのは、相当の時間を要すると思われる。

【角銅委員】

スケジュールは完全に明確ではないので、そのようなご意見も賜りながら並行して考えていきたい。

【片山委員長】

他になれば、今の議論をふまえて資料を修正願いたい。

それでは次に、モデル校区の進捗について事務局より報告をお願いしたい。

【角銅委員】

推進会議にて議論いただいた様式を使いながら、項目ごとに考えを出し合っているところ。まず校区の実態を出し合い、次に実態に基づいた小中一貫教育の目標を考えた。また、めざす子ども像についても考えた。例えば小中一貫教育の目標として、今のところ「未来をたくましく切り拓く児童生徒の育成」といったような目標を仮に立てている。めざす子ども像は、子どもたちの主体性を育てたいといったことや、自分も周りの人も大切にする子どもを育てたいといったような、具体のめざす子どものイメージを出し合っているところ。桜台中学校の校訓に、自主・敬愛・健康という3つの柱があり、この柱がちょうど校区のめざすところとも合致するので、この校訓を参考にめざす子ども像を最終的にまとめたいと思う。さらに、これらをふまえた重点的な取組みを、今すでに取り組んでいることやすでに取り組むことが決まっていることを中心に整理しているところ。

この推進計画が、他の中学校区の参考の資料となる。他の中学校区でも、これだったらできる、こういうふうにしたらいいのか、という資料にしたい。

【片山委員長】

今の報告について、いかがか。

【何森委員】

今のお話を聞いていると、大きな負担にならないよう配慮をしているようにうかがえるが、モデル校区のそれぞれの学校で説明する際に、どれだけそのような説明をしてくれているか。負担が大きくなるように配慮するというのが、この会議の中でも何度も話し合われていて、そういう方向で進めるということ、それぞれの学校で説明されているのか。管理職の先生に、こういうことを教員に説明しましょうという説明用の文書を作るということだったが、どのような状況か。そのあたりがずっと気になっている。

【角銅委員】

それぞれの学校でどのように説明されているかというところまでは把握していない。進捗に合わせて、それぞれの学校で説明する場面は今後もあると思うので、その際に、大きな負担にならないよう配慮するという点について、説明できるようにしたい。

【何森委員】

それぞれの学校で説明するときに学校間で差が出ないよう、参考の文章を作るという話があったと思う。その中に、負担が大きくなるように配慮される、ということがこの会議の中で話し合われているということを入れる話もあったと思う。このことについては、現状では十分にできていない。この場での報告では、さまざま配慮されていると感じるところはあるが、教員向けの説明原稿にしっかり盛り込むなど、はっきりと確認できる対応をお願いしたい。

【角銅委員】

今後モデル校区で進めていくにあたって、それぞれの学校で話をするタイミングがあるので、この推進会議で確認したことは伝えていきたいと思う。

【和泉委員】

現時点では、そんなに長い時間をとって説明をしたわけではないが、小中一貫教育として目標を中学校区で作り、それに向けてみんなで取り組んでいこうということと、今すでに取り組んでいるものを整理しながら進めていこうということなので、そんなに大きな負担になるようなことではないという説明はしている。

【片山委員長】

こういうステップをふむと円滑に進むというプロセスの部分が大事。できあがった計画書をどうぞと言われても、他の中学校ができるとは限らない。やはりそれに至った経緯が共有されるようにしたい。また大きな負担というようなことも、その負担がどうかというのは、まずキーワードとして「必要性」の部分についてこの場で議論してきた。必要のないことをするのはそれこそ負担に感じるだろう。やはり「必要性」があるかどうかというのが大切なことだと認識している。

【何森委員】

モデル校が決まった10月11日の推進会議の記録では、片山委員長の方からも、学校現場が大きな負担にならないよう、基本的には今すでに取り組んでいることを整理しながら進め、担当の指導主事が全面的にサポートするといった説明があった。こういったことを現場は聞いておきたい言葉だと思う。モデル校区として進みつつある中で、そういった趣旨の話が十分になされていないのは期待していたものと違うと感じる。校長先生レベルだけの話にとどまっているのも少し違うと感じるので、しっかり話をしてほしい。

【片山委員長】

ここまでモデル校区の進捗状況の話があったが、小中一貫教育全体の令和5年度以降の予定についても資料にまとめているので、説明をお願いしたい。

【角銅委員】

来年度以降の予定だが、モデル校区の動きと他の校区の動き、そして新たな科についての動きを別々に記載している。

まず令和5年度は、モデル校区では今作成している計画にしたがって取組みを進めていく。改善も含めて進めながら、他の校区のモデルとなる成果と課題を明らかにしていく。他の中学校区については、モデル校区の取組みを参考にしながら、令和6年度の全面実施に向けての計画を作成する。令和6年度からは全ての中学校区で小中一貫教育を進めていくことになるので、各校の小中一貫の担当者が、校区ごとあるいは全体で集まるといった形で情報交換等を行うことを想定している。また、新たな科については、教材を検討する会議体を設置する予定。

【北川委員】

ぜひこれまでの経緯や今後の予定について校長会で報告してほしい。そのうえで来年度にしっかりと取り組める体制が作れたらと思う。

今取り組んでいることを、担当者や部会の中だけで共有するのではなく、学校のあるいは校区の全教職員で共有できる良い取組みだと思う。

課題としては、校区割りの問題。1つの小学校から複数の中学校に分かれてしまう校区がある中で、どのように一貫して取り組んでいくか。だからといって、2つの中学校区がいっしょに取り組むとなると大きくなりすぎて難しい面も出てくる。今後の課題だと思う。

【片山委員長】

校区割りについては、基本方針の時点でも課題としてとらえている。ひとまずは、おおむねこうだろうという校区割りで取組みながら適宜考えていく必要がある。

では、他になければ、これで協議は終了としたい。

【角銅委員】

今回が最終回となる。いつもの会議録と、本日出した資料について修正したものを、委員の皆さんに後日送るので、確認してほしい。何かあれば連絡をいただき、年度内に会議録と資料について確定したいと思う。

それでは、以上で第7回の岸和田市小中一貫教育推進会議を終わります。どうもありがとうございました。

令和4年度 小中一貫教育推進会議まとめ

令和5年2月

岸和田市教育委員会 学校教育課

令和4年度は、小中一貫教育推進会議を計7回実施し、「岸和田市小中一貫教育基本方針」に基づいて具体的に進めていくために、主に「中学校区の計画書」「モデル校区の設置」「新たな科」の3点について、協議を重ねてまいりました。協議の中で確認した内容は以下の通りです。

以下の内容については、令和5年度以降、小中一貫教育について引き続き協議を進めるにあたっての留意事項または検討事項として引き継ぎます。

①中学校区の「小中一貫教育推進計画」について

- ・中学校区が一体となって児童生徒の「育ち」に関わることができる体制の構築に向け、小学校と中学校が同じ方向で教育を進めていくための「めざす子ども像」を、各中学校区で設定する。
- ・それぞれの中学校区で、今すでに行っているものや、今後行うことが決まっている取組みを計画として整理する。
- ・「小中一貫教育基本方針」の中には、「具体的な取組み」を記載しているが、記載している内容が全て必須事項とは考えない。
- ・岸和田市の教育大綱とのつながりをふまえた計画とする。
- ・各中学校区の推進計画は、めざす子ども像や具体の取組みのスケジュールなどを、簡潔にまとめられるものにする。
- ・大きな負担にならないよう配慮し、必要性のある計画とする。

②モデル校区の設置について

- ・小中一貫教育モデル校区として桜台中学校区を選定した。
- ・モデル校区では、まず、「めざす子ども像」の設定や、校区で今取り組んでいること、あるいはこれから取り組もうとしていることを整理し、小中一貫教育の観点から意味付けする作業を行う。
- ・他の中学校区で取り組むうえでの参考になるように、小中一貫教育を円滑に進めていくための方法や内容を研究し、成果と課題を明らかにする。

③「新たな科」について

協議をふまえた現段階の計画について、別紙を参照。

また、今後（令和5年度以降）に予定は以下の通りです。

（令和5年度）

■モデル校区

「小中一貫教育推進計画」に基づき、取組みを進める。取組みを進めながら、「小中一貫教育推進計画」に修正を加え、他校区のモデルとなる推進計画を作成する。

■他の中学校区

モデル校区の取組みを参考に、令和6年度から実施する「小中一貫教育推進計画」をそれぞれの校区で作成する。

■新たな科

「新しい科」の詳細を協議する会議体（プロジェクトチーム）を設置し、教材についての検討を行う。

（令和6年度）

■中学校区

それぞれの中学校区で、「小中一貫教育推進計画」に基づいた取組みを行う。

適宜、各校の小中一貫教育の担当者が、校区ごとで集まって会議を行ったり、市内全体での連絡会（回数などは今後協議）に参加して情報交換等を行ったりする。

■新たな科

教材の作成を進める。

（令和7年度～）

■中学校区

適宜、各校の小中一貫教育の担当者が、校区ごとで集まって会議を行ったり、市内全体での連絡会（回数などは今後協議）に参加して情報交換等を行ったりする。

■新たな科

学年ごとの教材作成、試作版の配布、試用期間の設定

試用をふまえた教材の修正、指導計画例と指導例の作成、活用方法の研修、研究授業の実施

令和9年度を目途に、全面实施。

「(仮称)新たな科」について

岸和田市教育委員会 学校教育課

■岸和田市小中一貫教育基本方針(令和2年10月策定)より抜粋

3. 新たな科の設置

さまざまな課題を主体的に解決することが、社会で求められる力の育成につながります。そしてそのような学習を、小学校から中学校まで系統的に積み重ねていくことで、児童生徒に確かな力を育むことができます。本市では、海と山の双方の自然に恵まれた地理的環境と、城下町として栄え、岸和田だんじり祭りといった歴史ある行事を有する豊かな社会文化環境を存分に活用し、地域とつながり地域で学ぶための「新たな科」を設置し、系統的に学習を進めていくための教育課程を編成します。

■設置する理由

- ・「新たな科」に子どもたちが主体的に取り組み、さまざまな課題を解決することで、社会で求められる力を育成する。
- ・子どもたちが生活する「岸和田」を題材にすることで、地域とのつながりを深め、未来の岸和田を担う力を育成する。
- ・小中学校が同じテーマで学習することで、より効果的に児童生徒の力を育成する。

■内容等

- ・小中学校が系統的に取り組めるもの
- ・「学びでつながる」ことができるもの
- ・今求められる力を育成するもの
- ・未来の岸和田を担う人づくりにつながるもの
- ・地元(岸和田)の素材を十分に活用するもの

■推進会議の協議まとめ

教材の内容

知識的なことを学ぶ内容ではなく、探究的な学習の進め方・考え方を学んでいけるもの。全体を3章構成とし、各章は各学年の段階にあわせた取扱いができるような紙面構成にする。

(事例として取り上げる探究課題)

地域や学校の特色に応じた課題

→町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、各地域や各学校に固有な諸課題

→よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題

(構成)

第1章「岸和田を知る」

岸和田の自然や地理、歴史を学ぶ方法(調べ方やまとめ方等)を知る。

第2章「岸和田の未来を考える」

岸和田のより良い未来を考える方法(日本や世界の流れ等の観点)を知る。

第3章「岸和田の未来を変える」

考えた未来を具体化する方法(明日から実行する、発表する、提案する等)を知る。

教材の体裁等

「電子データ」で作成する。

すべて完成してからではなく、できたものから順次提供することを検討。

使用が想定される時間や時間数

小学校3年生～中学校3年生までの「総合的な学習の時間」の中で使用することを想定。

「総合的な学習の時間」で活用できる参考教材という位置づけとし、各学校が「総合的な学習の時間」の指導計画に応じて柔軟に活用する。

実施する時期

令和9年度以降を想定。

実施までのスケジュール

令和5年度～令和6年度

「新しい科」の詳細を協議する会議体(プロジェクトチーム)を設置し、教材の作成を進める。

令和7年度～令和8年度

学年ごとの教材作成、試作版の配布、試用期間の設定

試用をふまえた教材の修正、指導計画例の作成、活用方法の研修、研究授業の実施

令和9年度～

全面実施。

その他

検証・見直しの時期を明確に設定する。

学習指導要領の改訂に留意する。